

事務所のこれからを考える

今年度第1回 職域超えて4氏がリレートーク

石川県建築士事務所協会



今年度第1回のリレートークの様子=金沢

石川県建築士事務所協会（小林正澄会長）は27日、金沢市武蔵町のITビジネスプラザ武蔵で今年度第1回リレートーク「建築士事務所のこれから」を開催し、建築設計界の未来について次世代を担う若手経営者や事業立ち上げを目指す若者と意見を交わした。

この日は約30人が参加し、冒頭、小林会長が「今、建築士の資格を持つ50歳以上が60%を占めており、今後どうなっていくのか危惧している。5年、10年後の事務所についてみんなで考えよう」とこのリレートークを始めたが、これからは県内だけでなく東海北陸ブロックでも広げていくとあいさつ。続いて今年度からリレートークを担当することになった青年委員会の宮坂智信委員長が「今年熊本県で開かれる日事連（日本建築士事務所協会連合会）全国大会の青年話創会で、今回いただいた意見などをとりまとめて発表したい。話

創会からの情報提供など皆さまにとって有意義な会となるよう頑張りたい」と述べた。

この後、トークに移り、洲崎典英氏（豊蔵組一級建築士事務所）は、現場監督の経験を経て一度、会社を飛び出して製造業界に入り、その後戻って来た道のりを紹介。現場監督時代は、建築担当だったが当時の会社が公共工事主体だったことからトンネルなど大型構造物の現場も経験。民間工事も物件を重ねることに「その都度新しい出会いがあり、仕事に喜びと可能性を感じた」と振り返った。その後、民間工事で知り合った最先端のものづくり企業の社長からヘッドハンティングさ

れ、県外の大型製造工場の人員700人の削減というプロジェクトに挑戦。製造業では素人同然のため、これまでの人脈はもろろん、ネットや電話で協力者を必死に探し続けた結果、3次元CADのシステムエンジニアが仲間に加わったことで、製造業界の発想では生まれなかった当時では珍しい3次元測定機を使ったシステムを開発して見事難題をクリア。ただ、数々の工場や製造現場を見て回るうちに「建築をもう一度やってみよう」と原点回帰。豊蔵組に戻り、現場監督兼営業を続ける中、建築をもっと勉強して豊蔵組にしかできないことをやりたい」と今後の抱負を語った。

続いて島本明佳氏（双星設計北陸事務所）は、地元ゼネコンや建築士事務所などの転職を経て双星設計北陸事務所の所長として事務所を運営していく上で人手不足や労働環境改善などの課題への対応について説明。今は上流、大手、安定志向が強く、「先輩たちがよく言う俺たちはこうしてきた」などの固定概念を押し付けるやり方は通用せず、リモートワークの有効活用、就業時間の撤廃、社員研修の導入、さらには社員評価制度では上司でなくクライアント（施主）など社会的評価の数値化といった取組について紹介。また、ゼネコンの設計・施工のメリットに勝る事務所の存在意義を常に問いつけ、クライアントの本質を読み取る努力が求められると強調した。今後は「自身の失敗した経験など何でも周りにぎっくばらんに伝えていきたい」と話し、「若い時はその仕事の意味を理解せず嫌々していたが今はそれが理解できている。経験には無駄がない」と力強く語った。

気谷源嗣氏（アドバンテージ建築設計）は、事務所についてサイン工事を本業としたグループ企業の一つで、社員が好きなこと、得意なことを生かすこと、デザイナーは自己主張せずにクライアントに寄り添う姿勢をモットーにしていると説明。建設業も経営し、各社を比較した場合、「本業のサイン工事は付加価値を高めることができ、内製化していることから粗利益が生み出しやすく、建設業はほとんどが外注費のために出しづら」と指摘。地域景観に配慮したデザインや施工を心掛けてきた結果、毎年「いしかわ広告景観賞」を受賞。今後はアウトドアコンサルタント業に力を注ぎ、気軽にキャンプが体験できるグランピング施設をコロナ禍で打撃を受けている旅館やペンションなどに提案・改修するなどして

収益を上げるビジネスモデルの展開を打ち出した。

桶村秀人氏（桶村設計）は、福井大学大学院を卒業後、大手ゼネコンに入社し、現場管理業務を6年経験した後、桶村設計に入社して代表取締役になった。「先代の父は事務所を継がせたくなかったが、今はその気持ちがよくわかる」と率直に語り、子どもが生まれてから仕事に執着を持ち始め、「今は家族と社員、その家族のことを考えるようになった」と話す。設計を続ける理由は「本来建物が好きで完成した時の施主やその関係者の笑顔を見た

時の喜び」と語り、施主は神様ではなく一緒に成長していくパートナーという気持ちで仕事に接しているという。小学生の子どもたちから「お父さんの設計の仕事がしたい」といつてくれるとうれしく幸せを感じるが、やっぱり「すぐく悩む」と事務所の事業承継に対する複雑な心の内を明かした。

この後、参加者を変えての全体トークに移り、各スピーカーへの質問のほか、社員教育など働き方改革への取組や、建築士以外に取るべき資格、事務所の事業承継など幅広い話題や悩みについて活発に意見交換した。